

5. 第8期計画策定に係る調査について

(2) 健康とくらしの調査について



加賀市健康福祉部長寿課

令和元年 9 月 26 日

健康とくらしの調査

《概要》

一般社団法人日本老年学評価研究機構（JAGES）の実施するアンケート調査、健診データなどにより要介護リスク分析・リスク者分布分析、要介護・健康長寿の要因分析、介護予防事業の効果評価などを行う。全国40余りの自治体が参加を予定しており他自治体との比較分析が可能。

- **調査対象者** 市内の65歳以上の人3,000人
(ただし要介護・要支援・事業対象者は除く)
※市民意識調査の5000人とは重複しないよう抽出
- **調査方法** 郵送調査→関係データをあわせて分析
- **実施時期** 11月ごろ発送予定

調査項目

《調査票について》

全16ページ

1ページ：挨拶・協力依頼文

全市町村共通項目

2ページ：過去の調査で分かったこと

3～12ページ：コア項目

- ・介護予防に有用であることが先行研究で示された項目等（次頁から分析例）
- ・国の「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の項目を含む

13～14ページ：バージョン項目（10種からランダムに掲載）

- ・探索的な項目、研究者の関心に沿った項目

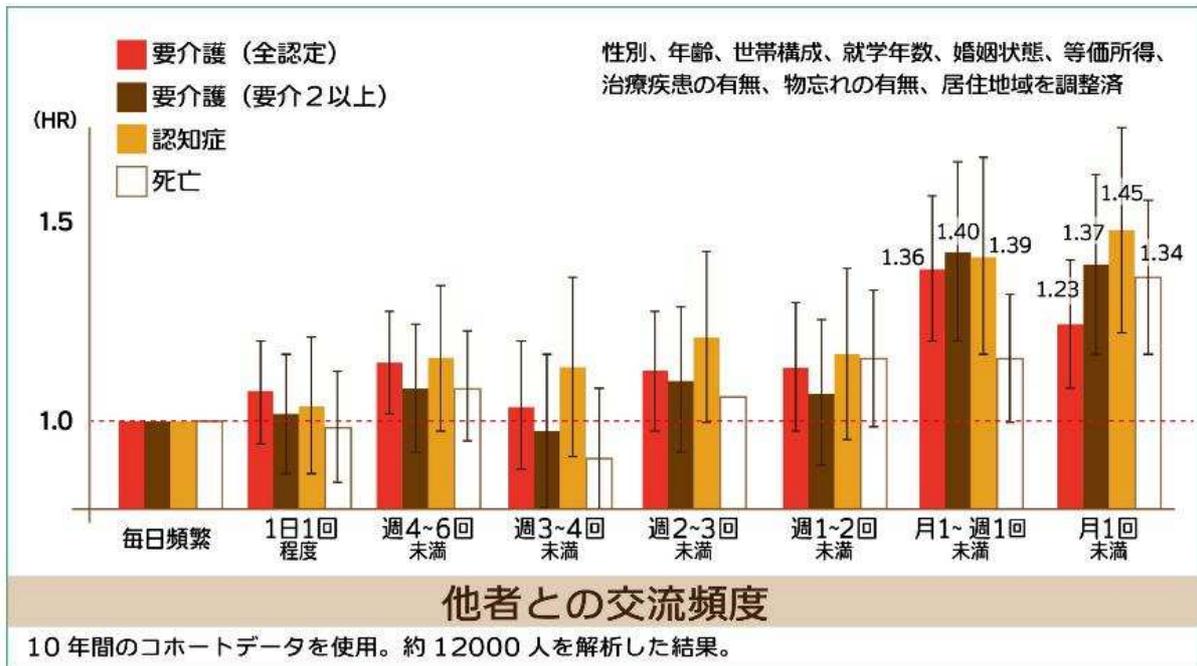
15～16ページ：市町村独自項目

《市町村独自項目について》

市民意識調査から第8期の方針検討に有用と思われる設問を採用する。

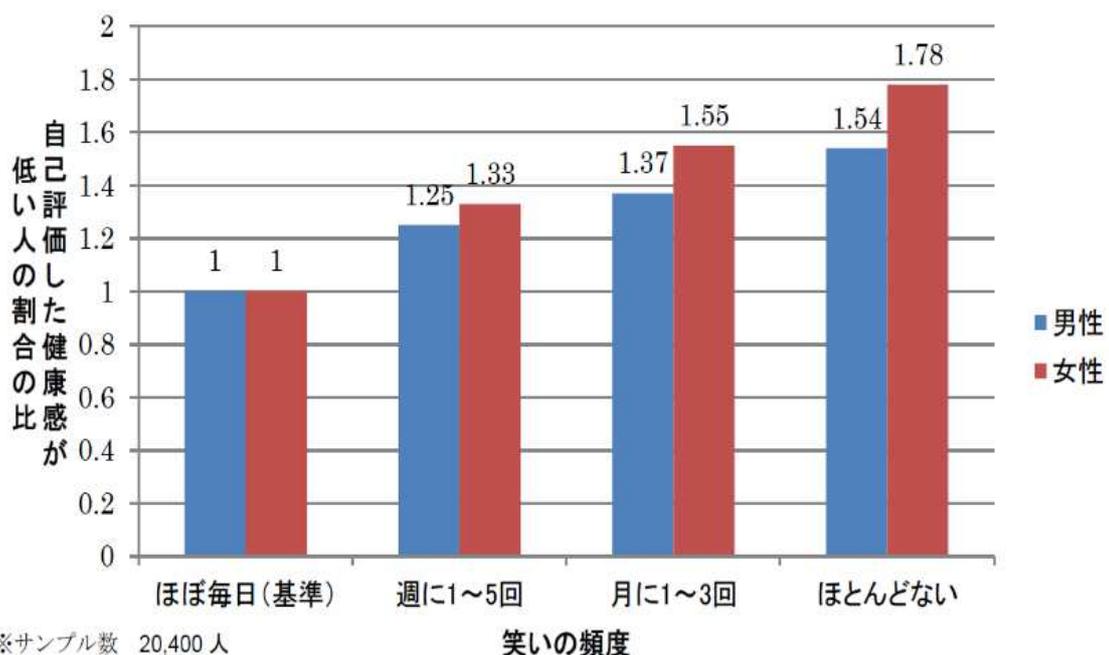
- 問19・22～27（資料5－1参照）

人との交流は週1回未満から健康リスクに ～月1回未満では1.3倍、早期死亡に至りやすい～



齊藤雅茂・近藤克則・尾島俊之ほか (2015) 日本公衆衛生雑誌, 62(3) より

笑わない人で健康感悪いが1.5倍



Hayashi K, Kawachi I, Ohira T, Kondo K, Shirai K, Kondo N: Laughter and Subjective Health Among Community-Dwelling Older People in Japan: Cross-Sectional Analysis of the Japan Gerontological Evaluation Study Cohort Data. Journal of Nervous & Mental Disease 203 (12): 934-942, 2015

日本老年学的評価研究 (JAGES) とは？

3つの主な研究目的

1. 「健康の社会的決定要因」の重要性を提示

- ・ ソーシヤル・キャピタルなど「健康の社会的決定要因」を解明する社会疫学研究

2. 「健康格差」の解明と対策

- ・ 社会経済的要因や地域間における健康状態の格差 (健康格差) の解明
- ・ 健康日本21 (第2次) の基本的方向「健康格差の縮小」のための「見える化」や方策の研究

3. 介護予防政策の見直し策を提案

- ・ 地域社会への参加などソーシヤル・キャピタルなどの重要性を明らかに
- ・ ハイリスク戦略ではなく、環境要因に着目し、地域住民全体を対象とした予防戦略の進め方とその効果を実証してきました
- ・ 市町村や事業者と協力し「地域づくりによる介護予防」研究とその評価に取り組んでいます

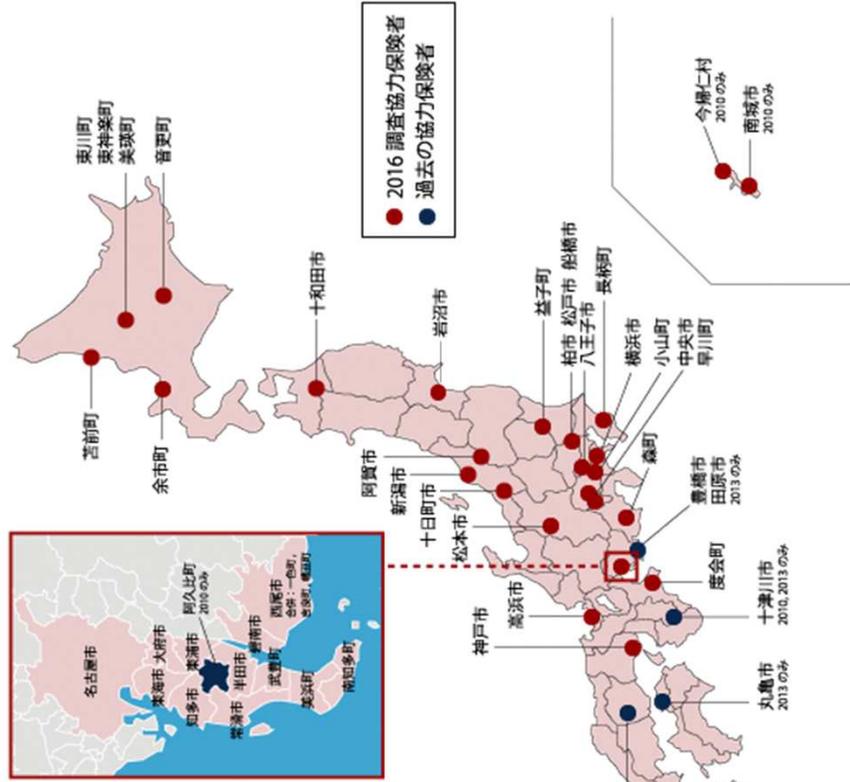
プロジェクト概要



JAGES：健康長寿社会づくりに向けた 社会疫学的大規模調査

主な対象は、要介護認定を受けていない高齢者。調査票は、説明文と合わせ計16ページ。全対象者が回答する「コア項目」（10ページ，ニーズ調査必須項目を含む）と，探索的な項目からなる「バージョン別項目」（2ページ，A～Hの8種類，8種類のうち無作為に割り振られた1種類を均等に配付，2019年調査は10種類を予定），「保険者独自項目」（2ページ）。

JAGES 2010 年	参加市町村数：31 送付数：約 17 万人 回収数：約 11 万人 回答率：約 66.3%
JAGES 2013 年	参加市町村数：30 送付数：約 19.5 万人 回収数：約 13.8 万人 回答率：約 71.1%
JAGES 2016 年	参加市町村数：40 送付数：約 30 万人 回収数：約 20 万人 回答率：約 69.5%



健康とくらしの調査
p.1 挨拶・協力依頼
p.2 過去の調査でわかったこと

pp.3-12 コア項目
ポピュレーション
アプローチによる
介護予防に有用で
あることが先行研
究で示された項目、
調整すべき
重要項目

pp.13-14
バージョン別項目
A～Hの5種類
探索的な項目、
研究者の関心に
沿った項目

pp.15-16
自治体独自項目（任意）
自治体が把握したい
事項の項目
(例：地域包括支援センター
の認知・利用状況)

パネル化が可能→個人・
地域の経時変化がわかる

自治体内でA～Hの回答者
をランダムに割り付け

コア項目	バージョン項目
身体状況 機能状態	A 口の健康、地域環境、経済の負担、 1年間の大変な経験について
心理	B 睡眠や食事、および過去の 大変な経験について
社会	C 健康状態、活動への参加、目や耳の健康、 インターネット利用について
社会経済的地位	D 医療受診や、かかりつけ医や 見取りについて
会・グループへの 参加	E 喫煙や趣味や運動について
地域環境	F 介護や地域の資源、 および福祉施設について
外出	G 健康食品や健康状態について H 地域の環境、および認知症や ストレスについて